

# AI キャラクターとのコミュニケーションにおける顔映像が情報の真偽判断に与える影響

2132050 小林 奨汰

指導教員：山崎 治 准教授

## 1. はじめに

近年、AI 技術の進歩により、生成映像がますますリアルになり、情報の伝達や受容に大きな影響を与えるようになってきている。特に、フェイクニュースやディープフェイク映像が SNS やメディアを通じて広まり、視聴者の認知や意思決定に悪影響を及ぼす事例が増えている。また、これらの映像は、ニュースキャスターのようなリアルな外見を持つ場合、視聴者に信頼されやすい一方で、微妙な不自然さが逆に違和感を生むこともある（佐々木 2024）。本研究では、不気味の谷現象に着目し、AI 生成映像のリアルさが視聴者の情報の信頼性評価や真偽判断に与える影響を詳細に検討する。

## 2. 目的

本研究の目的は、AI 生成映像のリアルさが情報の真偽判断にどのような影響を与えるかを明らかにすることである。具体的には、リアルなアバター映像と非現実的なアバター映像を比較し、それぞれの映像が視聴者の評価や感情に与える違いを分析する。

## 3. 実験

本実験の目的は、AI 生成映像のリアルさが視聴者の真偽判断に与える影響を詳細に検証し、予備実験で得られた知見をさらに検証することである。

### 3.1 方法

**実験参加者：**大学生 16 名が実験に参加した。

**実験計画：**実験計画はアバターの要因にもとづく 1 要因 2 水準参加者内計画で実施した。アバターの要因は「リアルなアバター」条件と「非現実的なアバター」条件の 2 水準から成る。

**材料：**映像は、Vidnoz 社が提供している AI 動画作成ツール VidnozAI で生成した嘘か本当か曖昧な情報をニュースの形式でアバターが話す動画を用いた。図 1 に、リアルなアバター映像と非現実的なアバター映像を示す。



図 1 実験で用いたアバター（左：リアル／右：非現実）

**手続き：**参加者にはそれぞれの映像を視聴した後、アンケートに回答してもらった。回答データは t 検

定を用いて分析し、リアルな映像と非現実的な映像の間の有意差を検討した。

### 3.2 結果

本来は参加者内計画で実施を予定していたが、1 回目と 2 回目の結果の対応が取れないことが判明したため参加者間計画の実験として以降の分析を行う。

図 2 に同じ内容の話題「人の夢を録画できるデバイスが開発されている」に対して、非現実的なアバター映像とリアルなアバターの映像に対して、真偽性判断をしてもらった結果を示す。

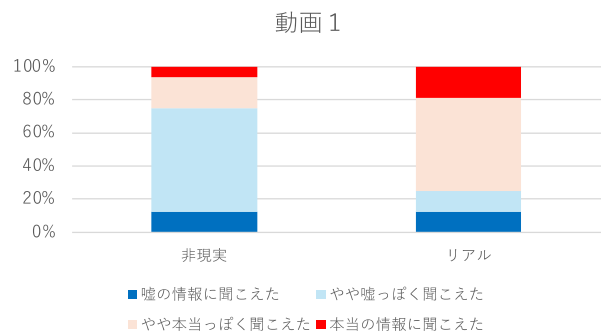


図 2 アバターの違いによる真偽性判断の結果

この結果、リアルなアバター映像は非現実的な映像に比べて信憑性が高いと評価される傾向が確認された。具体的には、リアルな映像では「本当らしい」と評価する回答が多く、非現実的な映像では「嘘っぽい」と評価される回答が多く見られた。また、「説得力を感じた」「信頼できると感じた」「親しみやすいと感じた」という映像やアバターに対する感情的な評価においても、リアルなアバターが高く評価されていることがわかった。

## 4. まとめ

本研究では、アバターの見た目や説明のリアリティが情報の信憑性や説得力に大きく影響を与える可能性が確認された。さらに、アバターの違いにより、親しみやすさや安心感といった感情要素が、視聴者の受容性において重要な役割を果たしていることが分かった。

ただし、予備実験の結果では、非現実的なアバターの映像に対して「本当らしい」や感情的な評価が高くなる結果も得られており、リアルさが情報の信頼性を高める一方で、微妙な違和感や不自然さが情報の受容性を低下させる可能性も示された。

## 参考文献

佐々木 誠. (2024). 【効率改善】AI アナウンサーのメリット・デメリットを徹底解説. 参照先: Vidnoz AI | オンライン AI 動画制作サイト: <https://jp.vidnoz.com/ai-solutions/ai-announcer.html>